

第9回自然と親しむ子ども山登り教室の全日程を無事終了しました!

★扇山(6月14日)

参加者 子ども3名
スタッフ4名
別働隊 会員(健常者5名)
親御さん2名

今年度の子ども山登り教室3回目となる扇山は、梅雨時の山行のため、天気予報が気になったが、雨でも実施する予定だった。理由は、今後は泊まりの山になるが、2日以上費やす登山の場合、雨になる可能性が非常に高いため、日帰りの山でも雨に慣れておく必要があるためだ。ただ、今回は、雨の可能性もあったが、一度も雨に降られずに下山できた。

今回は16人参加の予定だったが、Y君が登山に向かう電車の中で体調を崩しおばあちゃんと帰ることになった。妹のKちゃんも帰ると思っていたが、Kちゃんはひとりでも参加したいということで、1本遅れの電車でIさんと鳥沢駅に到着した。

全員揃って声出しをして出発する。今回は、駅からバスなどを使わず、車道を歩いて登山口の梨の木平に向かう。空には重い雲が立ちこめているが、目指す扇山と隣の百蔵山は見えている。

かなり車道を登ったところで、イチゴの実が出てくる。木イチゴの仲間だが、ニガイチゴだ

った。食べてみるとなかなか甘かった。さらに少し進むとオレンジ色のモミジイチゴが実を付けていた。こちらの方がおいしいはずだが、今回は少し酸っぱかった。



おいしかったモミジイチゴ

梨の木平からは登山道となり、次第に急になる。途中の水場は冷たい水が湧き出していておいしい。いつものことだけど、沢ガニがいてもさわがにように。

杉林から雑木林へと変わっていく。緑が力強さを増してきたが、それでも落葉広葉樹の緑は柔らかく目に優しい。



大久保のコルに到着!

ひとがんばりで大久保のコルに着く。男の子

二人はいつもながらの元気さで登ってきた。今回、初めて一人で参加したKちゃんも、楽しそうにがんばって登ってくる。

大久保の科尔からはひとがんばりで扇山の山頂だ。富士山の見える方向が刈り払われたのだと思うが、今日は雲に隠れて富士山の姿を見ることはできなかった。



今回、山仲間アルプのTシャツを着てきたメンバーが5人、まずはこの5人で集合写真を撮る。続いて、みんなで集合写真を撮る。

山頂でお昼を食べて下山にかかる。子どもたちは元気すぎて先へ先へと行こうとする。しかし、先頭を歩いていた子どもが転落死した事故も起きているので、子どもたちにブレーキをかける。とにかくなかなか言うことを聞かないが、

★平標山(7月4日～5日)

参加者 子ども4名
スタッフ4名
別働隊 会員(健常者1名)
親御さん2名

☆7月4日

梅雨のこの季節、週間天気予報は日替わりで変わってくる。しかし、関東よりも梅雨前線から遠い上越国境は、それほど荒天にはならない

ブレーキをかけ続ける。

途中、何度か「君恋温泉」の案内板がある。この温泉は事前に予約しないと温泉が沸いていないので、入ることができない。今回は予約してきた。

山腹をトラバースしていくと大滝不動に出る。Iさんがみんなのためにと持ってきてくれたスイカを出してくれる。この日2回目だ。ほどよい大きさに切って冷やして持ってきたので、冷たくてとてもおいしい。いつもいろいろと気遣ってくれるIさんにただ感謝です。

少し歩くとあじさいの咲く山里に出る。ここが君恋温泉だ。今日はじめじめと暑い日だったので、汗を流してさっぱりできた。Kさんが事前に頼んでいてくれたタクシーが予定の時間に着き、2回に分かれて鳥沢駅に向かった。

電車の中でも元気だった子どもたちだが、京王線に乗り換えると、ぐっすりと眠りについていた。

記：網干

コースタイム

鳥沢駅(9:05)…梨の木平(10:20-10:30)…
大久保の科尔(11:55-12:05)…扇山
(12:10-12:55)…君恋温泉(14:10)

と読んでいた。案の定、今回の登山中は一度も雨に降られることがなかった。しかし、初日の越後湯沢駅と、平標山ノ家での夜間は雨が降っていた。少しの間、雨雲を遠ざけてくれた天の神様に感謝です。

越後湯沢駅からバスに乗り、平標登山口で下車。林道の入り口で昼食タイムとする。自己紹介の後、出発する。

湯沢駅を下りた時は雨が降っていたため、雨具を身につけていたが、すでに降っていないので、脱いで歩き始める。別荘を右手に見ながら登っていく。

夏本番も近いこの季節、野鳥たちはまださえ

ずっている。少し離れた梢でオオルリがさえずっている。目の良いM君が見つけた。写真はピントが合わず、撮れなかった。他にもヤブサメ、イカル、センダイムシクイなどがさえずっている。

ゲート手前の水場で子どもたちは水を飲む。冷たくておいしかったようだ。林道から登山道に入る。少し行ったところに水場があるはずだが、水場が見当たらない。梅雨のこの季節に水場がないということは、もう水が涸れてしまったのだろう。子どもたちに嘘つきと言われてしまう。

この登山道は木の階段が連続する。子どもたちもどこまで続くのかと不満そうだ。さすがに疲れてきたのか、5年生の子どもたちが少し遅れるようになってきた。4年生の2人はすこぶる元気。疲れを見せずに登っている。



霧の中、平標山の家を目指して登る

霧の中に入り、さらに霧が少し切れてきた。振り返ると、苗場山方面がわずかに見えてきた。アカモノやベニサラサドウダンなどの花が見られるようになると、平標山ノ家は近い。受付を済ませるが、Sさんが少し遅れているようだ。どうも荷物が多すぎたらしい。それでも、少し遅れただけで登ってきた。

子どもたちはトランプを出して遊んでいる。今回は、我々ともう1パーティーだけの宿泊だ。しかし、これでほぼ満員。夕食後も子どもたちは2階でトランプをしていたらしい。小屋の若旦那？と一緒に遊んでくれたらしい。若旦那に感謝です。新潟弁がなつかしく感じた。

☆7月5日

夜半、かなり長い時間、雨が降っている時間があったようだが、目が覚めた5時頃はすでに止んでいた。早めに朝食を出していただき、平標山に向けて出発する。

曇り空だが視界が良く、平標山も仙ノ倉山方面もよく見えている。寒いので雨具を着て登りはじめる。子どもたちも元気に登っていく。



コバイケイソウ

足下には、ツマトリソウ、ゴゼンタチバナ、コイワカガミなどが咲き、樹木ではベニサラサドウダンやウラジロヨウラクがたくさん咲いている。振り返ると、平標山ノ家がすでに小さくなり、大源太山がよく見えている。



平標山山頂直下を登る

ハクサンコザクラが咲く湿原の向こうには仙ノ倉山が見える。左手には苗場山も見えてきた。クマザサ帯に付けられた登山道を登っていくと、平標山の山頂に到着する。苗場山がよく見え、志賀高原方面の山々や佐武流山、白砂山なども見え、その左奥には浅間山も見えていた。さらに榛名山、小持山、赤城山などが見える。

そしてこれから向かう仙ノ倉山が間近に見える。その左奥には谷川岳から武能岳の稜線が見え、さらにその奥に尾瀬の至仏山と燧ヶ岳が見えている。さらに左に目を転じると、巻機山が見え、越後平野へとつながっていく。



平標山山頂にて

集合写真を撮った後は、仙ノ倉山へと向かう。この稜線は、広くたおやかで絵に描いたような稜線散歩の道が続く。ハクサンコザクラやミヤマダイヤモンドソウ、ハクサンイチゲ、オノエランが咲き、ヨツバシオガマもたくさん咲いていた。



ミヤマダイヤモンドソウ

振り返ると登ってきた平標山と、その向こうに山頂湿原を持つ苗場山がよく見えるようになる。クマザサの草原もきれいなカーブを描いている。私たちが山頂直下を登っている時、平標山ノ家で一緒に泊まったパーティーが山頂から下りてきた。笑顔で挨拶を交わして、我々は山頂を目指す。

仙ノ倉山は、谷川連峰の最高峰。ここに立つと、谷川岳へと連なる国境稜線の山々が見えるようになるが、中でも万太郎山は立派な山容を

している。昨年秋に、この稜線を縦走してきたことが思い出される。しかし、一人で万太郎山方面から登ってきた若者は、昨日、土合駅から白毛門、清水峠、茂倉岳、谷川岳と縦走し、万太郎山下の越路避難小屋に1泊して、今日はここまで登ってきたらしい。ものすごいスピードに驚く。



仙ノ倉山山頂にて

仙ノ倉山からの展望を楽しんで、来た道を引き返す。花を見たり写真を撮ったりしたい大人を置いて、子どもたちはどんどん先を急ぐ。それでも途中のベンチで休憩し、平標山まで戻る。Kちゃんは、もう歩きたくないとぐずる。しかし、ぐずるだけで歩けないわけではない。平標山ノ家に着くと、すでに子どもたちは小屋のご主人とトランプをしている。



仙ノ倉山方面から見た平標山と苗場山

山口さんご夫妻と一緒に小屋の前で写真を撮らせていただき、下山にかかる。来る時はどこにあるのか分からなかったオオナルコユリを見つけた。初めて見る花だった。

子どもたちと一緒に下り、さらに林道を歩いて行く。林道を歩いていると、日が差してきた。

梅雨のこの季節に雨に当たることなく歩けたことに感謝です。



平標山の家の管理人さん夫妻と共に

バスに乗ると、千葉県から平標山の登山口に引越してきたというおばさんに声をかけられる。私は新潟県の出身ですというと、うれしそうにして、今度こっちに来たら家に寄ってってください。お茶くらい出すからと言って、

★燕岳(8月7日～9日)

参加者 子ども5名
スタッフ4名
別働隊 会員(障害者3名、健常者2名)
親御さん2名

☆8月8日

昨日、中房温泉まで来て、1泊した。子どもたちもいくつかの温泉に入ったが、K君のお父さんは、全ての温泉に入ったらしい。ここの温泉は、12ほどあるが、全て源泉が違うらしい。岩風呂が一番良かったそうだ。宿に到着してすぐ、K君の登山靴の底がはがれるアクシデントがあり、テーピングで対処しようと思ったが、小屋の方が麓の山用品店まで車で往復して下さるといふことで、大変助かった。中房温泉

テニスの道具を持って途中でバスを降りていった。

最後に、越後湯沢の駅で風呂に入って汗を流す。さっぱりして、新幹線に乗り込むと、景色を見るまもなく、猛スピードで関東に入っていく。「狭い日本、そんなに急いでどこへ行く」古い言葉を思い出す。

記：網干

コースタイム

7/4 平標登山口バス停(12:45)…平標山ノ家(15:05)
7/5 平標山ノ家(6:15)…平標山(7:10-7:20)…仙ノ倉山(8:20-8:35)…平標山(9:30-9:40)…平標山ノ家(10:20-10:40)…平標登山口バス停(12:25)

のみなさまに感謝です。



中房温泉の提灯とレトロな郵便ポスト

宿の朝食は6時30分と遅いため、昨夜弁当を作っておいてもらう。それを食べ、出発準備を済ます。夜行で来る人たちは、バスやトイレの混雑を避けるため、穂高駅からタクシーで宿まで来てくれる。ところが、夜行で来る人たちと早く会いたいと2人の子どもが迎えに行ってしまう。誰にもそのことを伝えていなかったため、浴槽の中でおぼれているのではないかと、確認して回っていると、ようやく戻ってきた。

全員揃って、中房温泉の登山口から登り始める。ここの登りは急坂が続くため、登りはじめ

は意識してゆっくり登る。それでも、順調なペースで登っていく。



合戦尾根の急坂を登る

第一ベンチに着くと、子どもたちは早速水場に行き、水遊びをしていたようだ。第二ベンチまでは標高差700mのため、比較的早く着く。今日は猛暑になる予報だったが、登山道は木陰になっていて涼しい。時折吹き抜ける風が心地よい。

第二ベンチから第三ベンチまでは長かったと思ったが、今回はあまり感じない。子どもたちも元気で順調に登ってきている。富士見ベンチでは、残念ながら富士山は見えなかった。

富士見ベンチを過ぎると次第に展望が良くなってくる。横通岳方面が見え、次に大天井岳が見えるようになる。その頃になると、登山道の傾斜も落ち、緩やかになってくる。しかし、樹高が低くなるにつれ、直射日光も時折差ししてくるようになる。そうなると、さすがに暑い。



合戦小屋でスイカタイム

対岸の有明山山頂と自分のいる場所の高さを比較しながら登ってきたが、そろそろこちらの方が高くなってきた。すると、もう合戦小屋

は近い。

合戦小屋に着くと、すぐにスイカを食べる。私は一切れ買い、半分をSちゃんにあげる。大きなスイカはしっかり熟し、甘くておいしい。甘い水分が体にしみいるようだ。



ウサギギク

合戦の頭への登りにかかると、高山植物が次々に現れる。ウサギギク、ハクサンフウロ、モミジカラマツなどなど。そして、槍ヶ岳も見えるようになる。しかし、直射日光が当たるようになり、急に暑くなる。ここの登りで、先頭と最後尾で少し間が空くようになってきた。Sちゃんは足が痛いと言い、鼻血も出てきた。急な暑さに参ったのだろう。Y君も遅れるようになってきた。



合戦の頭から見た針ノ木岳、蓮華岳、唐沢岳

合戦の頭からは、今まで見えなかった餓鬼岳、唐沢岳、針ノ木岳、蓮華岳が見えるようになる。これから登る燕岳と燕山荘も見えてくる。さあ、もうひとがんばりだ。

ミヤマリンドウやチングルマの綿毛を楽しみながら、緩やかな尾根を登っていく。登るにつれて、鹿島槍ヶ岳が見えるようになり、穂高

連峰も見えるようになる。花崗岩の岩場を過ぎ、燕山荘の下をトラバース気味に登る。ここのトラバースが今回、一番要注意の場所だ。全員、無事に通過する。



燕山荘直下のお花畑に登る

小屋前の稜線に到着すると、反対側の展望が一気に広がる。K君のお父さんが「なんだこれは！」と驚いたのが印象的だった。夏でも残雪を抱いた山々が視界いっぱいに広がる世界は、平地や低山では味わえない非日常の世界だ。はじめて出会ったら、誰もが感動するだろう。

小屋の受付を済ますと、小学生には燕岳の登頂証明書を授与してくれるという。スタッフが証明書を読み上げ、先に付いた3人の子どもたちに授与してくれる。少し遅れて着いたY君は、一人だけで受け取った。



小学生は小屋のスタッフから登頂証明書をもらう

小屋で昼食を摂った後は、燕岳山頂目指して出発する。早速、コマクサが迎えてくれる。ただ、旬の時期を過ぎているものが多く、しおれていたり痛んでいる花がほとんどだった。

左手に野口五郎岳、三ッ岳、烏帽子岳、そして水晶岳、鷲羽岳、三侯蓮華岳、双六岳を見て、

後方には、槍穂高連峰に笠ヶ岳、大天井岳、常念岳などを見ながらの登り。燕岳の山頂が次第に近づいてくる。山頂直下で先頭をK君、M君、Kちゃんに譲る。



燕岳全員登頂！

山頂に到着すると、今まで見えなかった剣立山方面もよく見えるようになる。手前には北燕岳もある。子どもたちも大人も全員登頂できた。4月の陣馬山から始めて、8月に最終目標の燕岳に登頂できた。感慨もひとしおだ。子どもたちは、この山登り教室に、他の予定より最優先で参加したいと言ってくれた。子どもたちのこの思いが、好天に恵まれた中での登頂を達成させてくれたのだろう。



コマクサのお花畑にて

山頂で集合写真を撮った後は、北燕岳手前のコマクサのお花畑に向かう。これは全員に通知していなかったことで戸惑った人もいたようだが、サプライズになったようだ。ただ、Kちゃんの靴底が完全にはがれてしまった。ここではどうしようもないので、テーピングのテープでぐるぐる巻きにして対処した。

燕山荘に戻る途中、小さな女の子がお父さん

と一緒に歩いていた。聞くと3歳らしい。お父さんの手助けがあったとは言え、登頂したことに驚く。



立山連峰を背に燕山荘に戻る

私は先頭グループの子どもたちと眼鏡岩の前で写真を撮ったり、冗談を言い合ったりして燕山荘に戻る。小屋に着いて、大人はのどを潤し、子どもたちはトランプに講じる。



燕山荘から見た燕岳

夕方になると、小屋の周囲は、雲に覆われて夕日や夕焼けは見られなかった。それでも20時頃には空は晴れ上がり、ほぼ満天の星空が



燕山荘オーナーのホルン演奏

見えた。夏の大三角を作ること座のベガ、はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイルが天頂

付近に広がっている。天の川が見え、北には北斗七星とアークトゥルスも見えている。カシオペアも良く見える。流れ星が見えなかったのは残念だが、みんな満足して部屋に戻って眠りにつく。

☆8月9日

4時半からの1番目の朝食を摂れるよう、3時半過ぎに起き、食堂前に行ってみるとまだ誰も並んでいなかったので安心して、4時少し前に行ってみるともう30人近く並んでいる。スタッフの方に聞くと代表者だけではなく全員で並ばなければならないとのこと。Eさんに、みんなに伝えにってもらおう。



雲海から姿を見せたご来光

しかし、なかなか揃わない。10人くらいしか揃わなかったが、スタッフの方が大目に見てくださり、16人分の席を確保してもらえる。早く来て欲しいとやきもきしながら食事を摂る。食堂の外で並んでいる人たちの目を気にしながらなので、どこに食事が入ったか分からないが、全員揃ってホッと一安心。しかし、K君は気持ちが悪いということで、食べることができない。早朝に起きた影響ではないかと思うが、その後も調子が良くないので、出発前に順天堂大学の診療所に行って、医師に診てもらい、吐き気止めを処方してもらう。

食後は、外に出て日の出を待つ。妙高山などの頸城山群、上越方面の山々、浅間山、八ヶ岳、富士山、南アルプスがよく見えている。鹿島槍上空の雲も赤く色づいていた。

ご来光を見て、写真撮影を済ませて、出発準備にかかる。K君も何とか歩けそうだ。



燕山荘から見た槍ヶ岳

名残惜しい風景を心に刻み、小屋を後にする。小屋下のトラバースを慎重に通過する。合戦尾根上の岩場も通過。合戦の頭で最後の展望を楽しみ、合戦小屋に下って行く。この頃には、調子の悪かったK君も元気になってくる。

登りでは遅れ気味だったY君も元気に下り、M君とKちゃんは最初から最後まで元気だった。今年、初登山で参加した中2のSちゃんも、過去4年間の経験を生かして元気に下山してきた。

登山口にある温泉で汗を流してさっぱりする。今回の登山が、子どもたちの成長の一助になるだろうと確信しつつ、穂高駅から混雑している電車に乗り込んだ。

記：網干



コマクサ

コースタイム

8/8 中房温泉(6:30)…第二ベンチ(7:50-8:05)…合戦小屋(10:10-10:40)…燕山荘(12:10-13:20)…燕岳(13:50-14:10)…燕山荘(15:00)

8/9 燕山荘(6:25)…合戦小屋(7:15-7:40)…第三ベンチ(9:00-9:10)…中房温泉(10:55)

第9回自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第4回平標山）

1日目、楽しかったことは三つあります。一つ目はしんかんせん(Max)に乗ったことです。Maxは2かい立てで大きかったのでびっくりしました。まさかこんなにすごいのに乗れるなんて思ってませんでした。二つ目は、Maxの中でのおべんとうです。ぼくが好きな具がたくさんあってとてもおしかったです。三つ目は宿にとまったことです。宿のスタッフの人がおもしろかったです。(とくにたこやきさん)おとなみんながビールをのんだときぼくが二かいでねようとしていると一かいから歌ってる声がきこえてぜんぜんねむれませんでした。けどその宿のスタッフが夜みんながねている時トランプでぼくたちとあそんでくれました。

2日目は、1日目よりたいへんでした。お父さんは上がりより下りのほうがたいへんだと言っていたけど、ぼくはぎゃくに下りより上がりのほうがたいへんだと思いました。

次の回でもみんなで山上がりをしたいです。

K.K君

ぼくは7月4日、5日、平標山にいきました。おばあちゃんと大宮まで行って、大宮から新幹線に乗りました。新幹線ははじめてでした。新幹線はきれいでした。新幹線でKD君とKT君とおにぎりを食べました。おいしかったです。

山ははじめはたいらだったけど、急に上に上がり、疲れしました。山の小屋に着いたらKT君、KD君とトランプで遊びました。小屋のお兄さんとお姉さんも一緒に遊んでくれました。

夜のご飯はおいしかったです。でも少し残してしまいました。次はちゃんと食べたいです。夜は遅くまでトランプをしました。8時15分に寝ました。

朝は1番にKD君が起きました。ぼくは2番目におきました。朝のご飯も少し残してしまいました。

山登りはきつかったけど頑張って登りました。おばあちゃんも頑張って登りました。とても楽しかったです。またKD君、KT君、Aさんと一緒に山に行きたい。また泊りの山に行きたい。Aさんおつかれさまでした。ありがとうございました。

Y.K君

わたしは平標山にいきました。新幹線でKT君、KD君と会えました。駅からバスに乗って歩きました。

急なところを歩いて疲れてきたけど頑張って山小屋につきました。山小屋ではおねえさんと、おにいさんとトランプをやりました。電気が消えてもそこだけつけてくれました。うれしかったです。

2日目はご飯を食べて山にいきました。わたしはAさんにくっついて頑張って歩きました。おりに山小屋に着いてから、今度はおじいさんとおばあさんとトランプをやりました。おりにするのは大変だったけど終わってよかったです。駅で温泉に入りました。気持ちよかったです。

K.Kさん

第9回自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第5回燕岳）

中房温泉までの移動がたいへん長かったけど、温泉がたくさんあってびっくりした。ねるまえに温泉4つも入ってしまった！ トランプで遊んでねようとしたらなかなかねれなかった。

次の日、中房温泉を6時30分に出発していきに登ったからつかれたけどベンチがあったから少しは楽だった。合戦小屋には、スイカがあって大きくなって甘かった。燕岳さんちょっとぶじ着いてほっとしました。さんちょうは岩があって、また360度山だった。燕山荘は星がきれいだったし、朝日や雲海もきれいだった。中房温泉に下りてきてすごいつかれしました。

しょうがい者の人たちもちゃんとおくれなくていいので、すごいなと思いました。

M.K君

ほ高駅をおりたあとバス乗り場に向かって、やっと近くまで来た。バスにのるとわくわくしていた。森の中を走っていて道がせまかった。1時間ぐらい走って中房温泉に着いた。ところが登山ぐつの底がぬけてしまった。このままでは登山ができないと思いお父さんに伝えた。温泉の人の協力をえて登山ぐつを買いに元来た道をもどることになった。幸い自分に合ったぐつを買うことができた。予想できないことがおこったけど車の運転するおじさんからクマに会わない方法やカミナリの対さくなどを教えてもらい、ためになった。その日は、よく日の登山にそなえて早くねた。

いよいよ燕岳に登山する当日、くまが出てこないようにするためにたいさくを心がけていた。ころびそうになったり、がけみたいな所を登ったりするのが大変だった。頂上についた時わすれられないぐらいうれしかった。合戦小屋でスイカを食べたこともわすれられない思い出だ。高山病になった時は、苦しくてなにも食べれなかった。このようなたいけんをやらしてくれてありがとうございます。

K.K君

わたしは燕岳にいきました。中房温泉はあつかったけど頑張っではいりました。せっちゃんはまだきてなかったけどSちゃんと一緒に寝れたからよかったと思いました。

富士山も見えたからよかったと思いました。合戦小屋ですいかを食べました。

つばくろのしょうじょうをもらい、頂上にいきました。足はいたかったけど頑張っでのぼれたからよかったとおもいました。せっちゃんもたいへんだったけど登れてよかったです。おにいちゃんも頑張っよかったとおもいました。

K.Kさん

ぼくは7時30分に家を出ました。新宿までママといきましたが迷ってしまいました、Aさんに会えました。新宿から松本まであずさ11号でいって、松本から穂高まで普通の電車でいきました。穂高駅からのバスはものすごく混んでいたけどM君とすわれてよかったです。

1日目の話をします。中房温泉についてとき、おはようございますと気持ちのいい挨拶をしてくれたのでぼくも挨拶をしました。中房温泉は楽しいお風呂がたくさんありました。一番楽しかったのは岩風呂です。広かったです。また入りたいです。

2日目は山登りです。Aさんの前にいたけど疲れてきたのでうしろから歩いて山小屋までいきました。すごい楽しかったです。

3日目は下山です。合戦小屋でまたすいかを食べました。半分はおばあちゃんにあげました。とても疲れたけどたのしかったです。穂高駅でそばを食べました。全部食べられなかったのでKD君のお父さんに食べてもらいました。今日はAさんありがとうございました。

Y.K君

第9回自然と親しむ子ども山登り教室親御さんからの感想

本教室に参加し、登山を通して親子の触れ合いや自然の中に身を置くことで、普段感じることのできない充実した時間を過ごすことができました。私自身、久しぶりの登山となりましたが、4回の登山を通じ、季節の移り変わり、その時々に出会う人々や草木、小鳥など、とても新鮮に感じました。また、子供を含め、山小屋に泊まることも初めての体験でした。1日中、自然の中に身を置くことで、日常から離れ、山の絶景や夜空にただひたすら圧倒されました。子供たちも仲間と一緒に努力した後の達成感は、かけがえのない経験になったと確信しています。

最後にAさんをはじめ、山仲間アルプのみなさんには大変親切にいただきました。改めてお礼いたします。 Y.Kさん

5回にわたり皆様に支えられ、見守られながら山登り教室を楽しむことができ、本当にありがとうございました。陣馬山で初めてお友達と一緒に山に登った日からMはこの山登り教室をとっても楽しみにしていました。

山には何度も登っていましたが、お菓子を交換したり笑い合ったりとお友達との関わりの中で一緒に頂上を目指してがんばると言うことが、今までとは違った魅力の詰まったものだったのだらうと思います。

特に山小屋泊の登山は、心に強く残る体験だったのではないのでしょうか。1つは霧に包まれ幻想的な雰囲気の中、連なる階段を一步一步踏みしめ小屋まで頑張って登った平標山。夜は屋根裏部屋でライトを照らしてトランプ遊び。熊笹が一面に広がる牧歌的な風景に感激しながらたどり着いた山頂。山の魅力が肌にしみこむような登山でした。

もう1つは、天候にも恵まれてすばらしい山行となった燕岳。自分の足で登りつめて山荘前の稜線に立った時、目に飛びこんできた風景の息をのむほどの素晴らしさ。夜はため息が出るほどの満天の星。朝は目に染みるような朝焼け、足下に広がる夢幻的な雲海と、天空の島のように浮かんで見える山々。今まさにのぼろうとしている太陽の一瞬の光をカメラでとらえたM。白い砂と花崗岩が広がる雲上の別世界を、頂上目指して歩いたとき、子供たちの目は輝いていました。こんな心がゆさぶられるような体験は、お友達との楽しかった思い出とともに、きっとMの心の奥深くに刻まれて、心の糧となるだらうと思うのです。

このような体験の場を作ってください、温かい目で支えてくださったアルプ山仲間の皆様に、改めて感謝申し上げます。 M.Kさん

2012年、3年前から始まった子供登山教室への参加。3年間は日帰りのみで頑張ってきた孫たちも今年は春から燕岳へいくんだとずっとこの夏を待ち続けてきました。

わたしは孫らの燕岳への登山を躊躇していました。孫らにはまだ無理ではないかと、わたしの目線で考えていました。しかし、それは間違いであったことに気が付くことになります。

子供らはまったく問題なく、平気な顔して燕岳に登頂してしまいました。その途中、痛い、疲れた、眠い、心の葛藤はあったかもしれない。

やった～、山頂での写真がその時を物語ってます。

子供登山教室説明会でのKDくんとお母さんとの出会い。陣馬山でのKT君とお母さんとの出会い。自由奔放な子供たちを束縛することなく見守ってくれたAリーダーとの出会い。いろんな目でサポートして下さったスタッフの方たちの出会い。この出会いが組み合わせあって、子供たちは元気いっぱい、ストレスを感じることなく、毎回笑顔で山に行くことができました。

登山を通して孫らに教えたかったこと、それはあきらめないこと。あきらめないでここまでこれたこと、わたしはそんな孫らを誇りに思います。支えて下さった、リーダーならびにスタッフの皆様、一緒に苦楽をともにしてくれたKTさん、KDさん、ありがとうございました。この場所をお借りし、父親、母親に変わりました、お礼とさせていただきます。

S.Kさん

山行報告

★乙女高原(6月7日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)
会員外(障害者1名、健常者1名)

週末の天気予報は、1週間前はあまり良くなかったが、近づくにつれて良くなり、前日には晴れ時々曇りになった。しかし、また当日になって、曇り時々晴れに変わる。実際に行ってみると、周囲のどの山も稜線付近を雲に隠して見えない。展望は利かないかも知れないが、今回の一番の目的はレンゲツツジなので、雨が降らなければよしとしよう。

柳沢峠でタクシーを下りる。すでに周囲にはレンゲツツジがたくさん咲いている。今回は、初参加の方が2人。新鮮な雰囲気がある。いつもどおり、自己紹介をして出発する。

まずは舗装道路を歩く。途中で大窪山への道標がある。シャクナゲ群生地があるということなので、立ち寄ってみることにする。今回は、ここが一番体力を必要とするところだった。新緑のカラマツ林を登り、少し急な階段を登るようになる。初参加で全盲のSさんは、初めての

山道のため、体力を使ったようだ。初めての山道は、精神的にもかなり緊張したはず。それでも、Nさんのサポートでがんばって登っていく。

山頂近くにシャクナゲの木はたくさんあったが、残念ながら花は一つもなかった。すでに花期が終わったのだろう。



乙女高原の白樺林とレンゲツツジ

大窪山の山頂で小休止して下りにかかる。遠くで、ホトトギス、カッコウ、ジュウイチのトケン類が鳴いている。近くでは、クイタダキやコガラ、ヒガラが鳴いている。

少しアップダウンのある道を下って、車道に出る。車道の向こうは、乙女高原だ。白樺の林とツツジがすばらしい。高原の遊歩道を歩く。足下には、サクラスミレやギンランも咲く。高

原を左回りに歩く形で、ヨモギ頭に登る。その手前の晴れていれば富士山がよく見えるところで昼食タイムとする。



今回、一眼レフカメラがSDカードを認識しないため、ビデオで写真も撮っていたが、Kさんが自分の持っていたSDカードを寄付してくださったので、その後は使えるようになった。Kさんに感謝です。

今回は、雲が多く残念ながら富士山は見えなかったが、とにかくすばらしいレンゲツツジが見られて良かった。少し上にあるヨモギ頭に行ってみる。ここは展望はなし。その先には、ブナじいさんがあるらしいが、かなり急にくだらなければならず、戻ってくるのも面倒なので、今回はパスする。



乙女高原を反時計回りに回り込むように歩く。とにかくレンゲツツジが満開に近くて、大群落のところも楽しく通過する。そして、自然観察路に通じる車道脇の遊歩道を歩く。ここは、湿地帯で、クリンソウやサンリンソウなどがたくさん咲いていて、すばらしかった。自然観察

路に入って、下って行く。こちらはヤマツツジが咲いている。足下にギンリョウソウが咲く。最初は分かりやすい道だったが、次第に道が分かりにくくなる。歩く人が非常に少ないのだろう。登山経験が豊富でないと、この道は途中でかなり不安になるところだ。私も、早くはっきり分かるところに出たいと思って、後ろが見えなくなる程度に先を歩いて、ルートを確認する。



道が少しははっきりしてきて、沢から離れて尾根の方に道が続いていたので、ホッとした。コルのところに道標もあり、ホッと一息。近くにはニリンソウが咲き、オオルリがきれいにさえずっていた。

コルから少し下りたところが、焼山林道だった。予約していたタクシーの運転手さんも10分ほど早めに来てくれて、すぐに乗り込み、塩山へと向かった。初参加のIさんもSさんも楽しめたと言ってもらえてうれしかった。

記：網干

《参加者の感想》

乙女高原はファンクラブがあるというので興味深かったのでいってみました。いってみればなるほど1700mの草原は綺麗に整備されていました。観察路にはロープがはってあり、歩道にはわらが敷き詰めてある。植物を人の足で荒らさないように配慮してあったのはすごいなと思いました。どれだけの人の手がかかっているのでしょうか。人の優しさがこもっている

草原って感じで気持ちよかったです。

ぶなのじいさんに会えなかったのは残念でしたが、星を見るのに適した場所のようなので、また訪れて、ぶなのじいさんに会いにきたいと思います。 記：S.Kさん

★根子岳(6月20日～21日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)
会員外(健常者1名)

☆6月20日

昨夜がらん洞のマスターから電話が入り、明日は予定通り来るのですかと質問がある。当然、行くことを伝える。さらに今朝になって、また電話があり、高速バスは、上田駅まで行かないで、住吉で下りた方がバスの乗り換え時間に余裕があると聞く。

高速バスで移動中も電話が入り、9人乗りのマイクロが準備できたので、住吉に迎えに来てくれるという。とてもありがたい。

住吉でバスを降り、迎えに来ていたがらん洞のマスターに挨拶をして、マイクロに乗せていただく。今日は、私たちだけの貸し切りらしい。

途中で真田本城跡に立ち寄っていただく。樹木の間から、明日登る予定の根子岳と四阿山が見えていた。



ダボスにて

菅平に着くと、マスターがダボスの登り口で下ろして下さる。明日の天気が心配なので、

コースタイム

焼山峠(10:55)…大窪山(11:30-11:40)…乙女高原駐車場(12:10)…ヨモギ頭(12:30-13:10)…(自然観察路)…焼山林道(15:05)

天気の良い今日のうちに少しでも歩いて展望を楽しんでもらおうというマスターの配慮だ。

しかし、M君は、急な予定変更のためにパニックになってしまった。高速バスに乗る時も、パニックになったが、お母さんから、予定が変更されたり、理解できない待ち時間があると、パニックになると聞く。今回も新しい勉強をさせてもらった。

ぐずるM君をIさんがしっかりサポートしてくださる。周囲には、アヤメが咲いている。冬はスキー場となる草原からは、明日登る予定の根子岳と四阿山がよく見える。雲は多いが日が差している。根子岳の山腹には、周囲が真っ赤になるほどのレンゲツツジ群落があった。

がらん洞に入り、汗を流した後は、食堂となるところでくつろぐ。食後は、マスターがピアノを弾いてくださり、いろいろな曲を歌わせてもらう。マスターの歌もすばらしい。



がらん洞のマスターのピアノ演奏で歌う

☆6月21日

明け方、カッコウの声が聞こえていたが、6時頃には雨が降り出し、カッコウの声も聞こえなくなった。

天気予報は、これまでと変わらず、上空に寒

気が入ってきていて、ところにより雷雨になるという。出発を少し遅らせ、四阿山は止めて根子岳のみにすることにした。M君は雷が大の苦手、もし山中で雷が鳴ると、どうなるか心配なので、今日の登山は中止して、お母さんと一緒に先に帰ることにする。

マスターに登山口の菅平牧場管理事務所まで送っていただく。雨は止み、視界もますますだ。四阿山への登山道を右に見て、根子岳に向けて歩き始める。Yさんからマタタビの花を教えていただく。



周囲にはレンゲツツジが多いが、すでに旬の時期を過ぎていた。牧場には牛たちがのんびりと草を食べている。そんな風景を眺めながら、ゆっくり登っていく。霧の中に東屋が見えてきた。登るにつれてレンゲツツジが増えてくる。



登山道や視界に入る範囲には、レンゲツツジが途切れることなく続いている。登るにつれて、色が鮮やかになり、つぼみも見られるようになってきた。白樺の白い樹肌とクマザサなどの緑、そしてレンゲツツジの赤が見事なコントラス

トで楽しませてくれる。足下には、ベニバナイチヤクソウ、ツマトリソウ、マイツルソウなどが咲き、スズランも咲いていた。樹木では、ズミやクロマメノキの花が咲いている。

樹木が少なくなったところからは麓が見えるようになる。しかし、すぐに雨が降り出した。雨具を身につけてさらに上を目指す。



根子岳はイワカガミで花の百名山に選ばれている。イワカガミよりも他の山ではあまり見られない大群生しているレンゲツツジの方がお似合いだと思うが、田中澄江さんはイワカガミを選んだ。登るにつれて、イワカガミとハクサンチドリが増えてくる。雨なので一眼レフのカメラを出せないのが残念だ。

クマザサの草原から岩の道に変わると山頂はすぐそこだ。ゆっくり登ってくるEさんと一緒に登ってくれているIさんに山頂到着を知らせようと、山頂にある鐘を鳴らす。全員揃って、集合写真を撮る。霧の間から隣の四阿山が姿を見せる。ここまで心配していた雷は落ちないでくれた。しかし、山頂は最も危険なところ。早々に山頂を後にする。

下山は同じ道を、絶え間なく現れるレンゲツツジを楽しみながら下る。東屋で昼食タイムとすることにする。雨も止み、登る時には見えなかった菅平牧場がとてもよく見える。レンゲツツジが点々と赤い塊を作っている。近くの方山に向こうには飯縄山方面もかすかに見えていた。ただ、残念ながら北アルプスは完全に雲の中だった。



レンゲツツジの群落広がる菅平牧場

がらん洞のマスターに電話をして、管理事務

★尾瀬沼・尾瀬ヶ原(7月19日～20日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

会員外(健常者4名)

☆7月19日

東武の尾瀬夜行に乗り、会津高原尾瀬口駅でバスに乗り換える。つい先ほどまで雨が降っていたようだが、今は降っていない。バスは満員で出発する。御池を過ぎたところで、バスは徐行してブナ平を上から見させてくれる。まるでブロッコリーのようにもこもこしている。針葉樹のように尖って見えるのではなく、丸みを帯びた全体の形がブナの特徴だ。



大江湿原を歩く

沼山峠休憩所で準備をして出発する。今回は会員でない方が4人参加だ。いつもとは少し違った雰囲気、それも楽しい。

歩き始めると、すぐにMTさんから「ゆっく

所まで迎えに来ていただく。そして上田駅まで送っていただいた。

何から何までお世話になったマスターに別れを告げて、新幹線「あさま」に乗り込んだ。

記：網干

コースタイム

6/20 ダボス散策

6/21 菅平牧場管理事務所(8:20)…根子岳(10:30-10:40) … 東屋(12:15-12:45)…菅平牧場管理事務所(13:10)

り行きましょう」と声がかかる。木道の上をゆっくり緩やかに登っていく。沼山峠を過ぎると緩やかに大江湿原に下って行く。木道が濡れているので要注意だ。

大江湿原に降り立ち、尾瀬沼に向けて木道を歩く。ワタスゲがたくさん咲いている。ニッコウキスゲも所々咲き、足下をよく見るとタテヤマリンドウの実や花、サワラン、ツルコケモモ、ミヤマカラマツなどが咲く。しばらく歩くとコバイケイソウもちょっとした群落を作っている。尾瀬沼が近づいてくると、一面を黄色に染めるニッコウキスゲの大群落が見られた。夏の尾瀬を彩るすばらしい風景に出会えて感激だ。



ニッコウキスゲがすばらしい大江湿原

尾瀬沼の北側を歩いて沼尻に向かう。遠くて識別できなかったが、アヤメかカキツバタの群落があった。沼尻の近くに来ると、トキソウの花やチングルマの綿毛も見られた。

沼尻から歩き始めると、一時雨が降ってきた

ので、雨具を付ける。しかし、雨はすぐに止み、蒸し暑くなるので、雨具を脱ぐ。木道は一層滑りやすくなった。MNさんが何度もスリップするので、両方の靴にテーピング用のテープを巻く。多少は滑り止めの役割ができたようだ。

下田代十字路に着くと、一部に青空も見られるようになり、至仏山がほぼ全体の姿を見せていた。ここにはアヤメやミズチドリが咲いていた。ゆっくり休憩を取り、温泉小屋に向かう。足下にはキンコウカやトキソウ、サワランがたくさん咲いている。名前の分からない花もあった。樹林帯では、紅葉したナナカマドも見られた。

温泉小屋は、別館など、3つほどの建物がある大きな小屋だ。受付を済ませ、希望者の6人で三条の



迫力満点の三条の滝

滝を往復することにする。

途中で鎖場が出てくると平滑の滝が見られる。一枚岩の岩盤の上を滑るように流れ落ちている。ここからさらに山腹をトラバースする登山道が続いている。所々ぬかるんだところがある。燧裏林道への分岐を過ぎて三条の滝へ向かう。この道は急坂となっている。三条の滝が見えるところで、Fさんに待ってもらって、展望台を往復する。急な階段に鎖が付けられている。降り立った展望台から見る三条の滝は、迫力満点だ。落差100mで圧倒的な水量で流れ落ちている。日本で最大級の滝らしい。

時間がかかり押していて、夕食に間に合わない可能性があるため、少しペースを上げて引き返す。さすがにFさんもばててきたが、最後までがんばって、夕食前に入浴することもできた。

おいしい夕食を食べた後は、外でいつものように歌合戦。もうすっかり雨の心配は必要なくなっていた。



温泉小屋にて

☆7月20日

朝起きると、外は朝霧で真っ白だった。カケスの声があったので、部屋の窓から見てみると、数羽のカケスがいた。写真を撮らせてもらう。



光り輝く朝露

朝食を食べ外に出る頃には朝霧もすっかりなくなって、雲は多いものの晴れている。草むらには水滴が無数に付き、太陽の光を受けてきらきら輝いている。小屋の前で集合写真を撮って出発する。

今回は、竜宮を通るコースではなく、東電小屋、ヨッピー橋を経由して山の鼻に行くコースを取る。只見川にかかる東電尾瀬橋を渡り、東電小屋で休憩する。東電小屋の近くにマルバノホロシという花を初めて見る事ができた。

ヨッピー橋を渡りさらに行くと池塘が点在する所に出る。青空を写して真っ青な池塘や、モウセンゴケが赤い線となって見える池塘もあった。Yさんが池塘に雲から顔を出した太陽が映り幻想的だと教えてくれる。池塘には、太陽や雲、そして青空が映って、不思議な風景を作っている。



次はニッコウキスゲの群落が見れる。至仏山も燧ヶ岳もすっかり雲が取れて、きれいに見える。そしてカキツバタの群落も見れる。変化があってとても楽しいコースだ。竜宮からの木道と合流し、牛首を過ぎ、上田代の木道を歩く。人も一気に増えてきた。



上田代に入ると、カキツバタが多くなる。池塘には真っ赤なショウジョウトンボも飛んでいた。至仏山もぐっと近づいてくる。

山の鼻で、ソフトクリームをみんなで食べる。暑くなってきた体を冷やしてくれるのでありがたい。

山の鼻からは、今回最も長い登りとなる、鳩

待峠への登りにかかる。体力面を心配していたMTさんも、元気に登っていく。木道は、毎年少しずつ交換しているようだ。しかし、アイゼンの爪の跡がたくさん付いているので、劣化も早いのだろう。



今回のゴール、鳩待峠について、昼食を摂り、乗り合いタクシーで戸倉に行き、そこからバスで沼田駅に向かう。下界はもう完全に真夏だった。関東地方の梅雨も明けたようだ。楽しい「夏の思い出」にしてもらえただろうか？

記：網干



コースタイム

7/19 沼山峠(6:50)…尾瀬沼(8:20-8:30)…

下田代十字路(12:20-13:05)…温泉小屋(13:40-14:15)…三条の滝(15:25-15:30)…温泉小屋(16:35)

7/20 温泉小屋(7:00)…東電小屋(7:50-7:55)…山の鼻(10:20-10:50)…鳩待峠(12:00)

★白山(8月1日～2日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)

☆8月1日

夜行バスで金沢駅に着き、そこからバスで別当出合に向かう。東京は今日も明日も猛暑の予報。金沢も東京ほどではないにしても暑い。今日は、熱中症に要注意だ。

別当出合には、トイレがあり、水の補給もできる。準備を整え、出発する。

砂防新道と違い観光新道はすぐに登りが始まる。標高は1,200m程度。この標高でもとても暑い。汗が噴き出してくる。それでも時折、涼しい風を送ってくれる山の自然はありがたい。

登るにつれて別山方面が見えるようになる。南竜山荘方面にロープウェイを作る計画でもあるのだろうか？ その付近で工事をしている。林道も山の奥まで延びている。

登るにつれて樹高が低くなり、直射日光が照りつけるようになる。ペースはゆっくりだが、暑さに汗が噴き出してくる。五輪坂を頑張って登り、尾根上の別当坂分岐に到着。冷たい風が吹き抜けて、とても気持ちよかったが、すぐに風も止んでしまう。ただ、ここからは比較的傾斜も緩くなる。ただ、痩せ尾根なので、少し注意が必要だ。



尾根を登っていくとさまざまな花が咲いて

いる。ハクサンシャジン、シモツケソウ、オオバギボウシ、ハクサンボウフウ、シシウド等々。アカモノやマイツルソウはもう実を付けていた。アサギマダラやミドリヒョウモンなども舞っている。高山植物が豊富で、豊かな自然が残る白山を楽しみながら登る。

尾根を登っていくと、さらにヤマルリトラノオやミヤマダイモンジソウやタテヤマウツボグサ、ミヤマキンポウゲ、キヌガサソウも見られるようになる。イブキトラノオやシシウドはそこら中でお花畑を作っている。



殿ヶ池避難小屋を過ぎるとお花畑が連続するようになる。クルマユリ、マツムシソウ、タカネナデシコ、ハクサンフウロ、カライトソウ等々。日本を代表する花の百名山だ、すばらしいの一語につきる。



黒ボコ岩に到着。この頃には夏雲がわくようになる。黒ボコ岩を過ぎるとそこは弥陀ヶ原。コバイケイソウの群落があり、クロユリがたくさん咲くようになる。木道を歩き、室堂センタ

一への最後の登りにかかる。屋根がすぐに見えそうだが、なかなか見えない。もう5分で着きますよと言う声に励まされて登っていく。

室堂センターで受付を済ませ、部屋に案内してもらおう。小屋の外でのどを潤して、早々に眠りにつく。

☆8月2日

朝3時半過ぎに起きて準備をする。外に出ると、御前峰に登る人たちのライトの列ができています。私たちが予定より早く山頂に向かうことにする。



黎明の時、御前峰に登る人のシルエット

山頂直下は渋滞気味で、日の出前に山頂に着けるか心配だったが、5分ほど前に着くことができた。山頂は人でごった返し、日の出は人の間からやっと見えるくらいだった。一番高いところでは、白装束の方が、私は高いところが苦手だと言いながらも、白山の説明をしている。山頂からは、北アルプスの山々、乗鞍岳、御嶽山、さらに中央アルプスと南アルプスも見えていた。



北アルプスから登るご来光

太陽が上がると白装束の方の音頭で万歳三唱。朝日がみんなの顔を赤く染めている。集合写真を撮って下山にかかる。この道も花が豊富だ。イワギキョウやシナノオトギリ、クルマユリ、クロユリなどがたくさん咲いている。



御前峰山頂にて

室堂センターで朝食を食べ、少し遠回りになるが展望歩道を経由して下山にかかる。すると、今までほとんど咲いていなかったハクサンコザクラの群落が現れる。クロユリもたくさん咲いている。このコースは、展望も良く最高だった。御嶽山には噴煙のようなものが上がっていたが、今日の捜索に影響はなかったのだろうか？



幻想的な北アルプス剣岳方面

アルプス展望台は素晴らしい展望だが、すでに気温が高くなっている。日差しを遮るものがないので、早々に下山にかかる。

少し下ると南竜の休憩所が見える。水場も現れた。雪解け水はとても冷たく、1分も手をつけておくことができないくらいだ。

湿原の木道を歩いていると、イワイチョウとチングルマが咲いていた。南竜山荘で、トイレ

休憩をして、早々に下山にかかる。遠回りしたこともあり、計画より40分近く遅れている。先を急ごうという声上がり、ウグイス観察もほどほどに先を急ぐ。



ハクサンコザクラ

お花畑を過ぎると南竜道分岐。さらに下ると甚之助避難小屋がある。ここでの休憩もほどほどに、先を急ぐことにする。コースタイムどおりに下れば、ぎりぎり予定のバスに間に合うという状況。

ややペースを上げて下って行く。先頭と後方で少し間が開いてきた。先頭が中飯場に到着するが、後ろのグループはまだ到着しない。先頭でぎりぎり間に合うかどうかという時間だったので、予定のバスは完全にあきらめることにする。

後方のグループが到着するとNさんが転倒して腿の外側を少し打ったらしい。しかし、歩くことに支障はないようだ。

長い下りをがんばってようやく吊り橋が見えてきた。後方グループも5分遅れくらいで到

着する。Kさんがねんざしたようで、足をかばいながら歩いている。最後になって疲れが出て、足をひねったようだ。(帰って分かったことだが、骨折していた)

予定のバスに遅れたので、白山温泉で汗を流すことにして、市ノ瀬までのシャトルバスに乗る。温泉に入ってさっぱりし、次の金沢駅行きバスに乗って、うだるような暑さの都会へと帰って行く。
記：網干



白山を代表する花・クロユリ

コースタイム

- 8/1 別当出合(9:20)…別当坂分岐(11:00-11:10)…殿ヶ池避難小屋(13:20-13:30)…黒ボコ岩(14:55-15:10)…室堂センター(15:40)
- 8/2 室堂センター(4:10)…御前峰(4:50-5:30)…室堂センター(5:55-7:05)…アルプス展望台(8:05-8:15)…南竜山荘(9:05-9:15)…甚之助避難小屋(10:00-10:05)…別当出合(12:00)

講習会報告

★岩登り技術講習会(阿寺)(6月28日)

参加者 会員(健常者5名)

今回は、初めて阿寺で実施した。阿寺の岩場は、東吾野駅から車道を越上山方面に歩いて、ジグザグの登りにかかる最初のカーブのとこ

ろにある。この岩場は、2013年5月に開拓されたばかりだ。岩場自体は狭いが、今回は来ているクライマーも少なく、この岩場の入門に近いルートに登ることができた。

最初は左端にある、トンコちゃんスラブの「登ってみんしゃい左」と右のルートを手始め



トンコちゃんスラブを登る KM さん

に登ってみる。左が5、7、右が5、8だ。つるつるのように見えるが、少しでこぼこの出っ張りはある。30年前に魔法の靴と言われた私のフィーレは、今もしっかりフリクションが利く。快適に登ることができた。



足に止まったオオムラサキ

スラブを登っていると、オオムラサキが舞っているのではないかと。最高に美しい国蝶。これは、写真に収めてみんなに見てもらわなければならないと止まるのを待った。なんと、別のパーティーの男性のズボンの裾に止まるのではないかと。「足を動かさないでください」と写真を撮らせていただく。しかし、このオオムラサキ、全然逃げる気配がない。指を近づけても逃げない。試しにと思ってやってみたら、私の指に乗り移ってくれた。そうこうしているうちに、カラスアゲハも現れて、美しさの競演をしてくれた。

一通りトンコちゃんスラブを登ったところで、昼食タイムとする。ここはベンチも作られていてありがたい。

昼食後は、右側の岩場に行く。ルートがはっ

きり分らないが、中央バンドにある支点から



そっと立つんだを登る HK さん

トップロープをセットして「そっと立つんだ」に挑戦してみる。取り付けにあるビレー用支点のすぐ左から登るが、その上に上がることができない。あえなく敗退。続いて HN さんが登る。HN さんは斜上しているバンド状のところを足がかりに登っていく。そのまま上がって、「逆層2度手間」ルートに入ったが、上の逆層に阻まれてテンション。振り子トラバース?で、左側へ。ここは「そっと立つんだ」の中間部と思われる。中央バンドの近くまで登ったが、あと少しのところまで、敗退。SK さん、KK さんは、斜上した足場の上部で敗退。HK さんは、HN さんと同じ方法で、中央バンドまで達した。



阿寺の岩場にて

最後に私は、斜上しているバンド状のところを使って「逆層2度手間」ルートに登ってみる。逆層のところを抜け、何とか中間バンドに達した。最後に、HK さんも「逆層2度手間」を登って中央バンドに達した。HK さんもだんだん上達してきていることが分かる。私が抜かれるのも時間の問題だろう。 記：網干

※参加者不足のためオオムラサキ自然公園ふれあいハイキングとふれあいキャンプ(廻り目平)を中止としました。

その他事業報告

★定期総会開催

6月6日(土)に第12回目となる定期総会を開催しました。今年度は役員改選の年となり、今まで監事を務めていただいた水野さんに

理事になっていただき、新たに見神さんに幹事に就任していただきました。詳細は定期総会議事録をご覧ください。

★1%支援制度PRイベントに参加しました

今年度も八千代市の1%支援制度に第9回自然と親しむ子ども山登り教室にかかるスタッフ交通費や諸経費の申請を行いました。毎年八千代市主催で行われるPRイベントに昨年は交流登山の準備で時間が取れず参加しませんでした。今年度は山口理事、箕輪理事、見

神監事、それに網干の4人で参加しました。

昨年度より少しでも多く支援していただける方が増えることを願っています。すでに市民の方の選択届けでは終了し、結果報告を待っている状況です。

各種連絡事項

☆来年度の登山計画を作成する委員を募集しています

山仲間アルプ設立以降13年間、会員のみなさまの意見を参考にしつつも、網干が年間事業計画の原案を作ってきました。しかし、今後の人材育成を考慮し、今年度から次年度の登山計

画原案を作成する委員を募集します。

委員は、3人~4人を考えています。委員になってみたいという方がいましたら、網干まで申し出ください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願ひします。(敬称略)

正会員

3名

編集後記

・理事長のつぶやき

今年は5人の子どもたちの参加を得て、第9回自然と親しむ子ども山登り教室を無事に終

えることができました。協力していただいたスタッフのみなさま、別働隊のみなさま本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

子どもたちは、あるがままの自分でいられるとき、ホッととても楽しく感じます。

私たち大人は、子どもを大人の基準に当てはめようとして上から目線で、子どもたちをコントロールしてしまいがちです。子どもたちは黙

っていても成長しています。大人は、子どもたちをしっかりと見つめて、成長した部分をしっかり把握し、「〇〇が成長したね」と声をかけてあげることが大切だと思います。

大人も一声かけてもらえるかももらえないかで、気持ちは全く違います。大人も子どもも同じという視点に立ち、子どもたちとの関わりを通していろんなことを学びたいものですね。

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

